

祭りに酔いしれる。

# 炎

8月

## 33 火おんどり

ひおんどり  
長篠・設楽原の戦いの1万を超える戦死者の供養は、今の世まで大切に受け継がれており、毎年8月15日の夜に行う盆行事「火おんどり」は、厳かな種火の行列に始まり、3mもの大松明を振りかざす勇壮なフィナーレで最高潮の時を迎えます。

新城ICより約1.3km

歴史のまちにちなんだイベントが人気で、迫力ある火縄銃の演武も見どころです。また、長篠・設楽原の戦いの戦没者を供養する「火おんどり」では、3メートルもの大松明を振りかざし、見る者を魅了します。

5月

## 34 長篠合戦のぼりまつり

ながしのかつせんのぼりまつり  
長篠・設楽原の戦いで戦死した両軍の将士の霊を慰めるために、関係将士の紋入りのぼり数千本を献植して行うまつり。鎧・兜に身を固めた砲術隊による火縄銃の演武、勇壮な合戦行列などが毎年5月5日に盛大に開催されます。

新城ICより約2.6km

5月

## 35 作手古城まつり

つくでこじょうまつり  
5月第2日曜日に亀山城跡付近で開かれるおまつり。長篠・設楽原鉄砲隊による火縄銃の演武をはじめ、句会・歌会・野点など雅雅を楽しむことができるおまつりです。

新城ICより約21.4km

6月

## 36 設楽原決戦場まつり

したらがはらけせんじょうまつり  
日本で初めて大量の鉄砲が使われた長篠・設楽原の戦い。その設楽原古戦場を舞台に火縄銃の演武や小・中学生による武者行列、子供武者による馬防柵演武などが行われ、当時の様子が再現されます。

新城ICより約1.8km

## しんしろ戦国絵巻三部作



34



35



37



38



39



41

## 新城の芸能

奥三河地域には、多くの民俗芸能が伝えられており、全国的にも有名な無形民俗文化財が集中しています。「三河田楽」として知られている「鳳来寺田楽」をはじめとして、富永神社の「祭礼能」や「はねこみ」「名越神楽」などの民俗芸能が今なお受け継がれています。

## 41 新城新能

しんしろたぎのう  
町衆によって受け継がれてきた、伝統芸能「能・狂言」です。全国的にも、町衆だけによる演能は大変珍しいといわれています。夏に行われる幻想的な伝統芸能です。

8月

新城ICより約5.4km



## 37 大海の放下

おおみのほうか  
8月14日・15日の夜、背中に高さ2.1mの大団扇を背負い、腹には直径50cmの太鼓を抱えて初盆の家々を周り、庭先で鉦と太鼓の静かなリズムに合わせて舞う盆行事です。

8月

新城ICより約3km

## 38 乗本万灯

のりもとまんどう  
毎年8月15日の夜、精霊送りと悪霊鎮めの意味を込めて行われ、市内竹広地区の火おんどりと並び火を使う盆行事です。さらしを巻き足にはわらじを履いた勇壮な若者が、5.6mの縄の先につけられた万灯(麦わらで作製)を力強く頭上で振り回します。

8月

新城ICより約3.8km

## 39 鍋づる万灯

なべつるまんどう  
毎年8月15日の夜、大きな松明を山の斜面に立て、一斉に点火する万灯祭が行われます。明々と燃える松明が、鍋弦の形をしていることから「なべつる」万灯と呼ばれ、京都の大文字焼きと同じく精霊送りの行事です。

8月

新城ICより約4km

## 40 富永神社例大祭

とみながしんじやれいたいさい  
3日間にわたって繰り広げられる富永神社の祭りでは、江戸時代から伝わる町衆による能、さざ踊り、稚児などの伝統的な芸能が町ごとに披露され、勇壮なやぐらの練りこみ、手筒花火の奉納などの賑わいで街中が昼も夜も祭り一色の雰囲気となります。

10月

新城ICより約4.7km



40

## 42 鳳来寺田楽

ほうらいじでんがく  
毎年1月3日、鳳来寺の田楽堂で演じられる田楽で「三河の三田楽」の一つ。この鳳来寺田楽は鳳来寺が扶持を与えて田楽衆に奉仕させたので、寺田楽ともいわれています。国の重要無形文化財に指定されています。

1月

新城ICより約14.3km